

2010/08/16

日本史学研究室 博士課程 1年(平成 22 年度時点) 吉井文美

派遣形態：個人派遣

研究テーマ：「中国をめぐる日英関係の展開 -1931~37 年-」

派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

①利用した史料館 [すべて所在する国はイングランド、順不同]

国立公文書館 (サリー)

ウォーリック大学近代資料センター (コヴェントリー)

ケンブリッジ大学図書館 (ケンブリッジ)

ギルドホール・ライブラリー (ロンドン)

ロンドン・メトロポリタン・ライブラリー (ロンドン)

②コンタクトした主な研究者 [順不同]

アントニー・ベスト氏 (LSE 国際歴史学科)

島津直子氏 (ロンドン大学バークベックカレッジ歴史古典考古学学科)

新広記氏 (ヨーク大学歴史学科 [鉄道交通史研究所])

バラック・クッシュナー氏 (ケンブリッジ大学東アジア研究学科)

(2) 派遣期間

2010 年 3 月 31 日出発、6 月 3 日帰国

総日数：63 日

主な研究成果

(1) 当初の研究の概要 (200 字程度)

英国外務省の史料を幅広く閲覧するとともに、1930 年代の日本の外務省記録の日英関係史料のいかなる部分が欠損しているのかについて、英国に現存する対日関係資料と日本の外務省記録を突き合わせることで明らかにする。英国連邦省の史料や英国の対中国政策関係の外交史料を閲覧することで、英連邦諸国及び中国が東アジアにおける日英関係に与えた影響に迫る。今後の史料活用の便宜を図るために、適宜史料群の目録を作成する。

(2) 実際に達成された成果(400 字程度)

The National Archives においては主に以下の三点の作業を行った。①マイクロフィルム版の FO371 所収 1931-37 年の対日・中外交文書のうち、見にくいコマを原史料で確認・撮影する。②FO405 所収 1927-37 年の中英関係の史料を閲覧・撮影し、目録を作る。③HW12 所収 1933-37 年の、イギリスの諜報機関によって傍受された各国の電報のうち、東アジアに関わるものを閲覧・撮影し、目録を作る。①②から今後日英中の国際関係を考察する際の基本史料および目録が揃うとともに、③から、日本国内では焼却されたと思われる可能性の高い日本外務省と駐英大使館間の電報のうち、英国によって傍受されたものが現存することが明らかになった。また Modern Record Centre で英国産業連盟の、London Metropolitan Library 及び Guild Hall Library では中国で活動した各種英国企業の史料を閲覧した。今後中国東北部における英国の経済権益の象徴的な意味に注目した研究を行う上で極めて有用である。Cambridge University Library では、同大学の所蔵する日本資料等を確認した。

(3)今後の研究展望(200 字程度)

今後「日中戦前期中国をめぐる国際関係の展開-日本・中国・英国の協調と乖離- (仮)」という博士論文を執筆する。本調査ではこの内、日英関係についての新史料を発見し、英中関係についての基本史料を揃えた。今後は前者に関して、特に中国東北部のイギリス経済権益をめぐる日英関係の雑誌論文を公表し、後者に関しては、さらに台湾で対英外交档案を閲覧した上で雑誌論文を執筆する。英連邦省史料については機会を改めて調査を行う予定である。